

GAIT 2

■ GAIT 2:

IT全般統制の不備の評価のためのGAIT

404条評価中に検出したIT全般統制の不備が

重要な欠陥 (Material Weakness) か

重大な不備 (Significant Deficiency) かを

評価するためのアプローチ

GAIT 2

■ 6つの評価原則

原則1： 財務諸表とキー・コントロールとの依拠の連鎖の理解

原則2： 発生可能性と影響度のテスト

原則3： 発生可能性と影響度のテストは複数のステップにわたり実施

原則4： IT全般統制の不備のグループとしての評価

原則5： IT全般統制の未達成の統制目標のグループとしての評価

原則6： 集計の原則の適用

GAIT 2

6つの原則： 原則1

財務諸表とキー・コントロールとの依拠の連鎖を理解する

*全般統制の不備を評価するにあたって、財務諸表と、不備のある
IT全般統制のキー・コントロールとの依拠の連鎖を理解する*

GAIT 2

6つの原則： 原則1（続き）

■ 依拠の連鎖

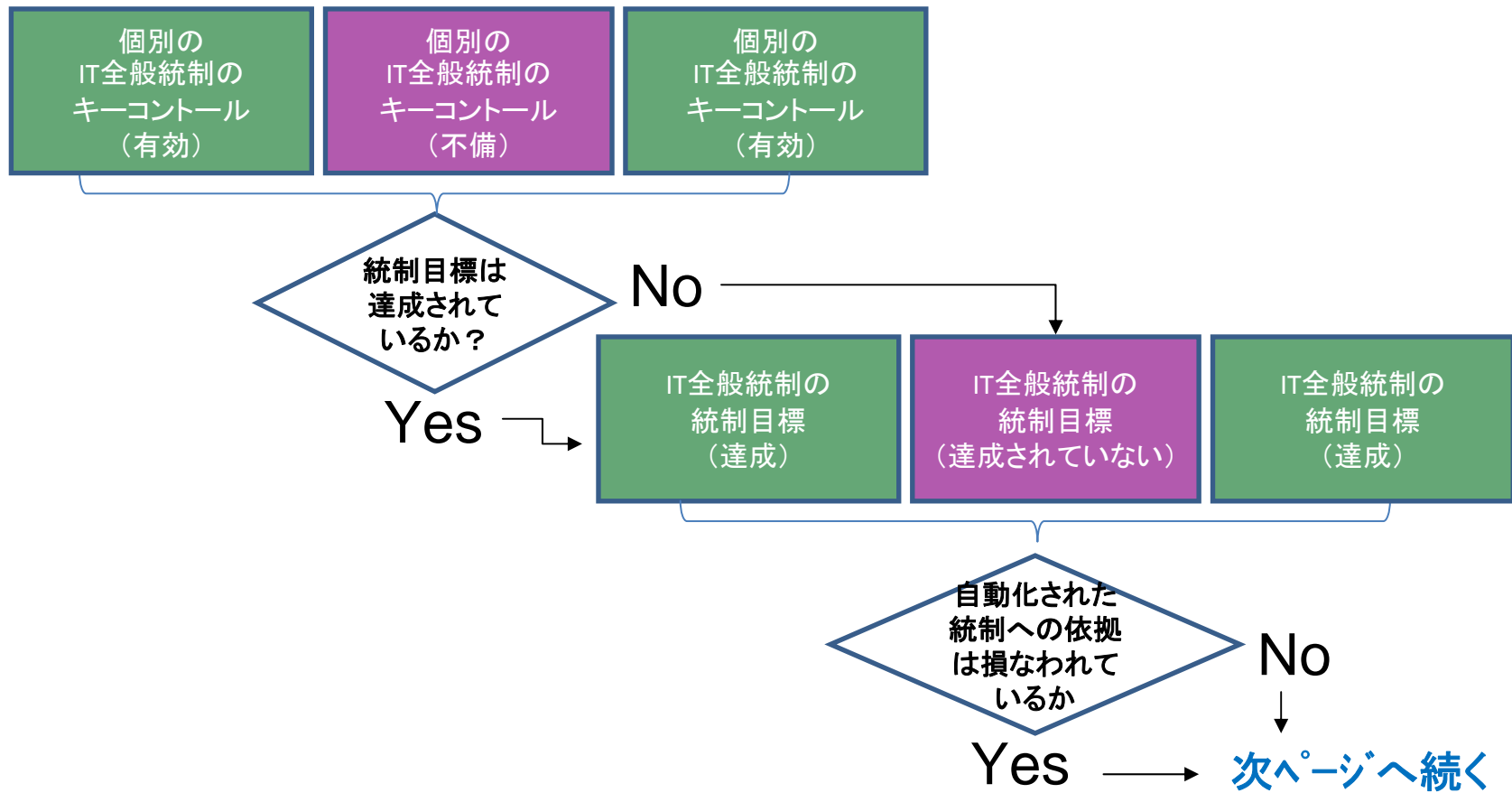
✓IT全般統制の不備と財務諸表との関係

（両者間の潜在的な影響をあらわす）

✓トップダウンかつリスクベースでIT全般統制のキー・コントロールを選択するGAIT メソッドロジーのアプローチとは逆の流れ

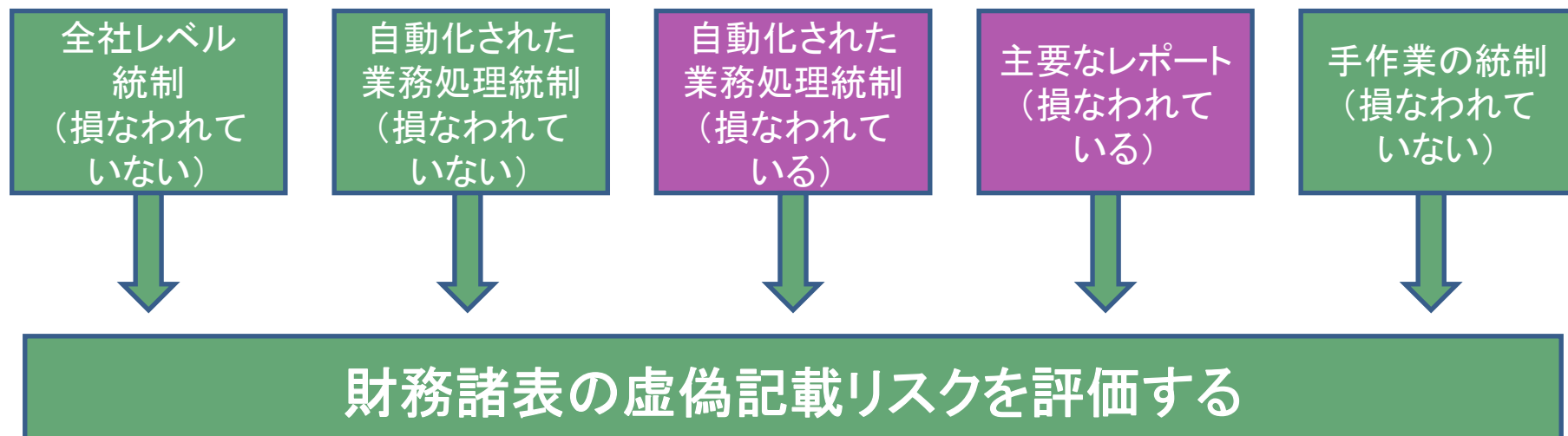
GAIT 2

■ 依拠の連鎖 (Reliance Chain)



GAIT 2

■ 依拠の連鎖 (Reliance Chain) 続き



GAIT 2

6つの原則： 原則2

■ 発生可能性と影響度をテストする

重要な欠陥(MW)とみなすには、(a)発生可能性および(b)影響度の2つをテストする

GAIT 2

6つの原則： 原則3

■ 発生可能性と影響度の検証は複数のステップにわたり実施する

IT全般統制の不備は、財務諸表に直接的な影響を与えないため、その評価も同様に直接的ではない。評価は様々なステージやステップにおいて行い、発生可能性と影響度の検証は複数のステップにわたり実施する

GAIT 2

6つの原則： 原則4

■ IT全般統制の不備をグループとして評価する

同一の統制目標に関連するIT全般統制の不備すべてをひとつのグループとして評価する

GAIT 2

6つの原則： 原則5

■ IT全般統制の未達成の統制目標をグループとして評価する

未達成のIT全般統制の統制目標のうち、同一の自動化されたキー・コントロール、主要なレポートまたはその他の重要なIT機能に関連するすべてをひとつのグループとして評価する

GAIT 2

6つの原則： 原則6

■ 集計の原則を適用する

集計の原則により、あらゆるタイプの統制の不備(同一の重要な勘定科目や開示事項に関連する、手作業および自動化された統制の不備を含む)はグループとして評価する

GAIT 2

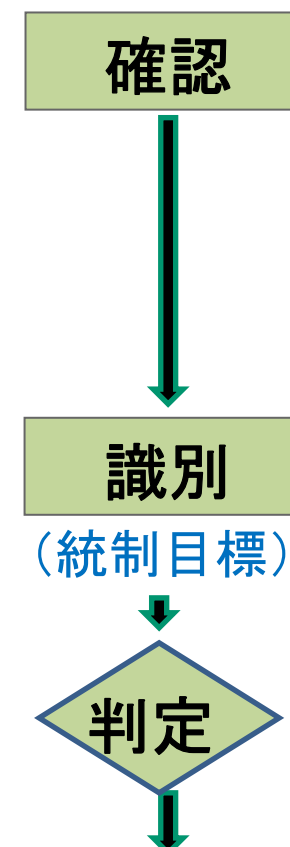
■ 10の評価プロセス

1. テストによる例外事項はすべて統制の不備であり、(統制に関連しない) 独立した例外事項ではないことを確認する(注)

(注) テストのデザインの失敗により、テストによる例外事項が統制の不備を示さず、独立の例外事項が検出されることがある。その場合は、テストを再設計する。

2. IT全般統制の統制目標のうち、統制のテストが済んだものを識別する

3. IT全般統制の統制目標が達成されたかどうかを判定する



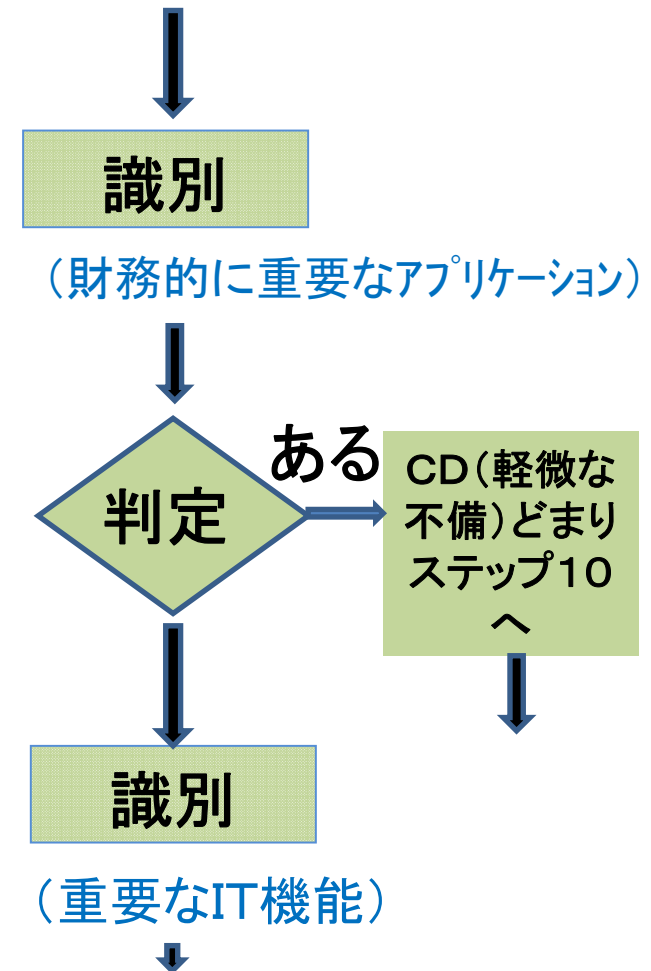
GAIT 2

■ 10の評価プロセス(続き)

4. 統制目標の達成に依拠している財務的に重要なアプリケーションを識別する

5. 正常な運用において、IT全般統制の統制目標が達成されないことが発見される合理的可能性があるか？

6. IT全般統制の統制目標が達成されない場合、重要なIT機能のどこにリスクがあるかを識別する

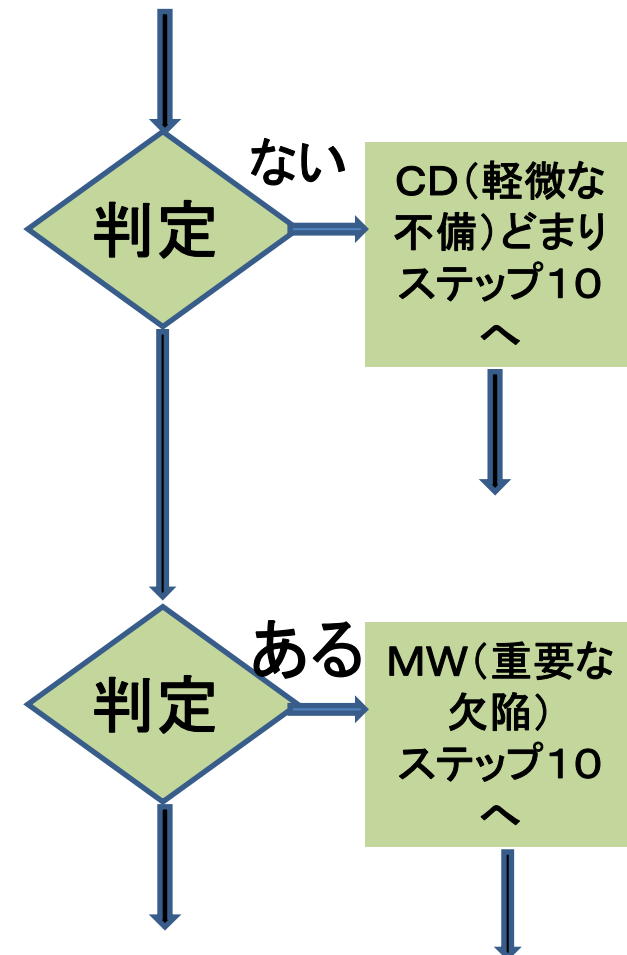


GAIT 2

■ 10の評価プロセス(続き)

7. リスクのある個々の重要な機能について、IT全般統制の統制目標が達成されないことによって、機能の不備が発見されない合理的な可能性はあるか？

8. 重要なIT機能および他の業務統制の運用を検討した上で、その不備が財務諸表の重要な虚偽記載につながる合理的な可能性はあるか？



GAIT 2

■ 10の評価プロセス（続き）

9. そのリスクは、MW（重要な欠陥）よりは軽微であるものの、取締役会の監査委員会にSD（重大な不備）として開示するに十分な合理的可能性があるか？

10. ステップを遡り、財務諸表についての統制リスクの集計が考慮されているかの確認も含め、適切な人物によるレビューを実施する

